

川崎市のごみ処理事業の沿革

年号・西暦・人口	取組事項	この頃の川崎市
大正13(1924) 48,394人	清掃監視業務開始	川崎町、御幸村、大師町の合併により川崎市誕生
昭和11(1936)	ごみ焼却処理開始 大島ごみ焼却場竣工(市で初の焼却場)	市内の各学校に二宮尊徳(金次郎)の銅像が建設されはじめる。
昭和13(1938) 234,542人	市でのごみ収集開始	本庁舎竣工
昭和30(1955) 445,520人	日本初の自動車によるごみ収集開始	第10回国民体育大会開催
昭和43(1968)	粗大ごみ収集開始	東名高速道路川崎インターチェンジ開設
昭和44(1969)	全市で毎日収集(週6日)を実施	市電の運行廃止
昭和52(1977) 1,032,852人	空き缶分別収集試行開始	リエカ市(クロアチア)と姉妹都市となる。
昭和59(1984)	使用済み乾電池分別収集開始	市制60年を記念して「好きですかわさき愛の街」を制作
昭和60(1985)	ごみ収集車のオルゴール曲を「好きですかわさき愛の街」に変更	宮前・麻生文化センターオープン
平成2(1990) 1,173,603人	ごみ非常事態宣言	ヨネッティー王禅寺オープン
平成3(1991)	空きびん分別収集試行開始 分別収集推進委員制度創設	リサイクルビレッジ堤根、橋、王禅寺オープン
平成6(1994) 1,202,069人	廃棄物減量指導員制度発足 普通ごみ収集を週6回から週5回に変更	清掃局が生活環境局に変更 ポイ捨て禁止条例制定
平成7(1995)	日本初のごみの鉄道輸送開始	川崎駅前タワー・リパークが完成
平成10(1998)	南部リサイクルセンター竣工	川崎河港水門が国の有形文化財登録
平成11(1999)	ペットボトルの分別収集開始(川崎・幸・中原区) 「資源物の日」を全市域に拡大 普通ごみ収集を週5回から週4回に変更	岡本太郎美術館オープン
平成12(2000)	ふれあい収集開始	K2タウンキャンパスオープン
平成15(2003)	ペットボトル分別収集全市実施	全市立小学校にわくわくプラザ開設
平成16(2004) 1,306,021人	粗大ごみ有料化	ミュージア川崎シンフォニーホール開館 川崎フロンターレJ1昇格、J2優勝
平成17(2005)	かわさきチャレンジ・3R(川崎市一般廃棄物処理基本計画)策定	路上喫煙の防止に関する条例制定
平成19(2007)	普通ごみ収集を週4回から週3回に変更	第3回アメリカンフットボールワールドカップ 2007川崎大会開催
平成23(2011) 1,430,773人	ミックスペーパー分別収集全市実施 プラスチック製容器包装分別収集開始(川崎・幸・中原区)	かわさきエコ暮らし未来館開館 藤子・F・不二雄ミュージアム開館
平成25(2013)	「かわるん」誕生 プラスチック製容器包装分別収集全市実施 普通ごみ収集を週3回から2回に変更 小型家電の拠点回収開始	川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)開設 中原図書館リニューアルオープン
平成27(2015)	3処理センター体制開始	等々力陸上競技場メインスタンド供用開始 川崎富士見球技場リニューアル
平成28(2016)	ごみ減量 未来へつなげるエコ暮らしプラン (川崎市一般廃棄物処理基本計画)策定 川崎市ごみ分別アプリ配信開始	王禅寺エコ暮らし環境館開館
平成31(2019) 令和元 1,530,457人	生活環境事業所を5か所から4か所に変更	台風15号・19号で市内に被害発生
令和2(2020)	一時多量ごみ制度開始	「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定
令和6(2024)	橋処理センター竣工 プラスチック資源の分別収集開始(川崎区)	川崎未来エネルギー株式会社事業開始 市制100周年
令和7(2025)	プラスチック資源の分別収集開始(幸区・中原区) リチウムイオン電池等分別収集開始	市役所広場オープン
令和8(2026)	ごみから資源へ、未来へつなぐ資源循環(川崎市循環型社会形成推進計画)策定 プラスチック資源の分別収集全市実施	



手車による収集の様子



スクリュードラム車



バックドラム車



川崎市民の皆さんへ
非常事態宣言
ごみ非常事態宣言
ポスター



ブルー資源分別
チラシ



ごみから資源へ、
未来へつなぐ資源循環

●ごみ・リサイクルに関するホームページ

市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp>) から

ごみ・リサイクル

検索



このパンフレットに関するお問い合わせ先 川崎市環境局減量推進課 電話 044-200-2580 FAX 044-200-3923